

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年4月17日 (2008.4.17)

【公表番号】特表2004-506036(P2004-506036A)

【公表日】平成16年2月26日 (2004.2.26)

【年通号数】公開・登録公報2004-008

【出願番号】特願2002-519411(P2002-519411)

【国際特許分類】

C 0 7 C 303/06 (2006.01)

C 0 7 C 15/107 (2006.01)

C 0 7 C 303/32 (2006.01)

C 0 7 C 309/31 (2006.01)

C 1 1 D 1/22 (2006.01)

C 0 7 B 61/00 (2006.01)

【F I】

C 0 7 C 303/06

C 0 7 C 15/107

C 0 7 C 303/32

C 0 7 C 309/31

C 1 1 D 1/22

C 0 7 B 61/00 3 0 0

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月28日 (2008.2.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 アルキルアリアルスルホネートを製造する方法において、

a) C_4 - オレフィン混合物を、2 - ペンテンおよび / または 3 - ヘキセンを含有するオレフィン混合物の製造のための複分解触媒上で反応させ、場合により 2 - ペンテンおよび / または 3 - ヘキセンを取り出す、

b) 工程 a) で得られた 2 - ペンテンおよび / または 3 - ヘキセンを、二量体化触媒上で二量体化し、 $C_{10} \sim C_{12}$ - オレフィンを有する混合物を得、場合により $C_{10} \sim C_{12}$ - オレフィンを取り出す、

c) 工程 b) で得られた $C_{10} \sim C_{12}$ - オレフィン混合物をアルキル化触媒の存在下に芳香族炭化水素と反応させ、アルキル芳香族化合物を製造し、

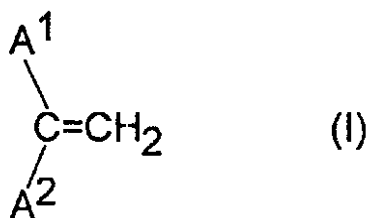
d) 工程 c) で得られたアルキル芳香族化合物をスルホン化し、中和して、アルキルアリアルスルホネートを得る、

ことから成ることを特徴とする、アルキルアリアルスルホネートの製法。

【請求項 2】 工程 a) の複分解触媒を、元素の周期表の遷移金属群 V I b、V I I b または V I I I の化合物から選択することを特徴とする、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】 工程 b) において、元素の周期表の遷移群 V I I I から選択される少なくとも 1 種の元素を含有する二量体化触媒を使用し、この触媒の組成および反応条件を、式 I :

【化 1】



[式中、

A^1 および A^2 は、脂肪族炭化水素基である]の構造要素（ビニリデン基）を有する化合物を 10 質量%を下回って含有する二量体混合物が得られるように選択することの特徴とする、請求項 1 または 2 に記載の方法。

【請求項 4】 工程 b) で得られるオレフィンが 25 質量%を下回る非分枝オレフィンの割合を有することの特徴とする、請求項 1 から 3 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 5】 工程 b) で得られるオレフィンの少なくとも 80%が、1つの分枝を有するかまたは主鎖の鎖長さの $1/4 \sim 3/4$ 、有利には $1/3 \sim 2/3$ の範囲で隣接した炭素原子に 2 つの分枝を有することの特徴とする、請求項 1 から 4 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 6】 工程 c) において、アルキル化触媒を使用して、アルキル基中に H/C の係数が 1 である 1 ~ 3 個の炭素原子を有するアルキル芳香族化合物を誘導することの特徴とする、請求項 1 から 5 までのいずれか 1 項に記載の方法。

【請求項 7】 請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の方法で得られる中間体としてのアルキルアリアル。

【請求項 8】 請求項 1 から 6 までのいずれか 1 項に記載の方法により得られるアルキルアリアルスルホネート。

【請求項 9】 常用の成分に加えて、請求項 8 に記載のアルキルアリアルスルホネートを含有する洗剤または清浄剤。